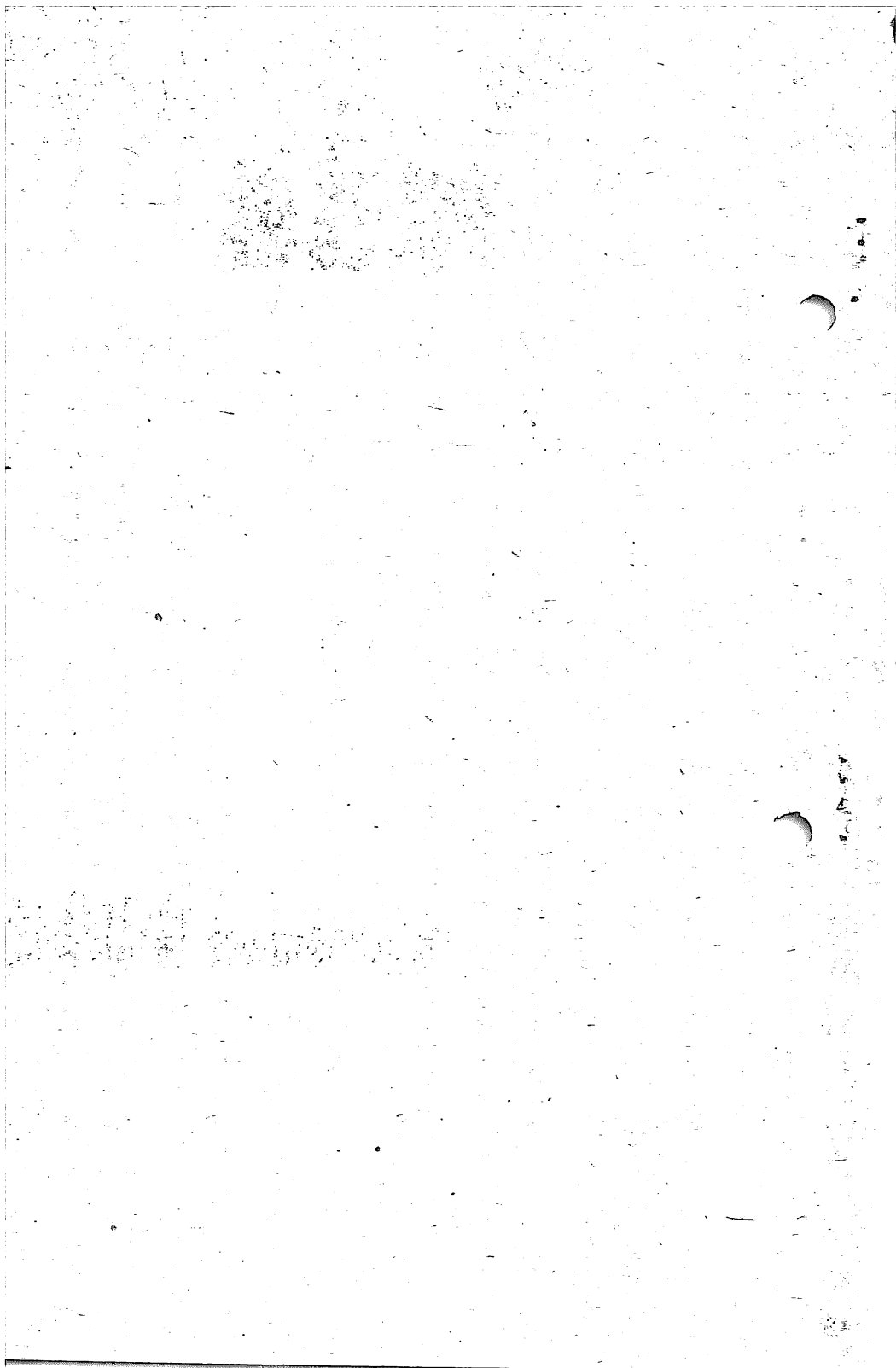


SIMAC<sup>66</sup> 75

Pre 冬山合宿

報告書

信州大学山岳会 伊那松本山岳部



## 各係の反省

### {ア} 装備係反省

短い山行であったので、致命的ではなかったが、ミスが多く、細かい配慮にかけていた。

- i) 6入天のフレームの長さが長すぎた。事前のチェックが不十分。
- ii) スコップにロウソクをぬるのを忘れていた。
- iii) ホエーガスの圧力ポンプのハッキンを全部替えたのだが、グリースをぬるのを忘れていた。
- iv) 予備類は、まず使うことはないと考えていたが、フカンとピッケルを使用した。予備アイゼンは、実際予備アイゼンとして、使えるのか、不安が残る。
- v) 6mmφのfixサイルは、キックしやすい、もつれやすい。持ち運びの方法に何か新しい工夫はないだろうか。

### {イ} 記録係反省

- i) 当初の予定を変更して、独立した行動記録用紙をつくらず、下山後、1年生3人に記録をまとめてもらうことにした。これは、入山日数の短かさを考えてのことである。
- ii) 登攀を含んだり、長期入山になるなど行動が複雑長期化するときには、やはり、記録用紙を携行するのが望ましい。
- iii) 記録用紙は、もう規格化を考えてよい時期に来ている。日付、コースタイム、行動説明、ルート図などの必要事項の記入欄を設けた丈夫な、手頃な大きさのカードを作って、必要数をもって入山するようにしたいものだ。
- iv) 上級生には、一度は通ったコースだったから、天候のよさもあって、地形や現在位置の確認は、たやすかっただろうか、1年生は、それらをしっかり見ていただろうか。冬山に向けて、チェックを望む。
- v) 歩いている時も、周囲の状況をわかっているためには、危険のない限り、先行者との間に間をおくことも重要である。

### {ウ} 医療係反省

- i) 事前連絡の不徹底で、伊那からの医療セットが、とれなかったのは、遺憾であった。
- ii) 特に傷害、疾病もなく、下山できたことについては、各自の自己管理の功を多ししたい。
- iii) 今後、セットの使用に於ては、薬剤の処方解説、日寺、被投与者名、処方などの記録用紙、各自の持病説明などの紙片を同封するのが望ましい。

### (エ) 気象係反省

- i) 気象係は、山行前に、事前研究をしなかった。全く、すみません。
- ii) 5日の気象通報をきくのが、少しおくれてしまった。
- iii) 一年生は、まだ天気図作成が、へたで、そしてあそい。日頃から、練習をしよう。

### (オ) 食料係反省

日数が短く、行動も楽だったため、特に失敗が表面にでた事は、なかったと思う。反省点を箇条書きにすると、

- i) Essen量がかかりいいかげんだった。
- ii) 種類も同じいいかげん。
- iii) 旧目の行動食「アX」を察にわすれた。

### (カ) 会計・渉外係反省

山行前、集めた金 ---  $3500円 \times 13人 = 45500円$   
装備、Essen費 --- ~~30325円~~ 26553円  
電車費 ---  $290円 \times 13人 = 3770円$   
山行後、返した金 ---  $1150円 \times 13人 = 14950円$   
残った金 --- 227円 → 部費  
Essenが安く取って、お金がたさんもどておいた。以上。

# 行動記録

12月5日 ● → ●

松本 — 神城 — 遠見小屋 — 中遠見付止

7:15                      10:20                      13:40

あいにくの雨の出来であった。ゴウツな思いの中にも山々雪が降るという期待もあったが、スキー場にすら雪が降らなかった。泥のゆるくなった急斜面を登る。去年よりたいてい速い。

12月6日 ① → ② (小屋付止は雪と降った地吹雪)

T.S. — 大遠見付止 (幕営) — 白岳 — 五蔵小屋

6:50                      8:20                      11:40                      12:00

← アイゼン修行くん → 小屋 — T.S.

fix くん 13:30                      15:00

ワカンをはい2... 鹿島の北壁、めぞす五蔵が遠々と見える。大遠見付止で幕営のちサブで五蔵小屋へ。途中白岳でワカンとアイゼンには主替り1年はきまてる。小屋に着いた後 渡部、吉田、村田、二保はfixの練習に40分止へ。残り全員でアイゼン修行の練習。

12月7日 ⊗ → ②

T.S. — 五蔵小屋 — T.S. — fix and fix 通過練習 —

6:30                      8:35                      10:10                      12:00

中遠見付止 ↓

13:10

昨日のトーストが2.1Pで白岳まで雪+風で視界が(あまり)せず小屋の位置がわかりにくかった。小屋で天候回復を待たなければいけなく、五蔵 attack を断念。帰途中、疲労も天気はよくなった。T.S. 着後 2年生以上と Leader 以外は fix 練習 (T.S. 付止の南斜面) 2.1P 1.1P は設営訓練後 fix 通過くん、徹夜 (2 中遠見付止 (1日目のT.S.) に幕営 1.1P と早く下ったと死にそうだった。夜明日下山を決定... 2.1P は 2.1P。

12月8日 ②

T.S. → 神城駅

6:40                      9:30

地蔵の川からスキー場の下りは速そうだった。久保川の泥遊び... 駅で meeting を後解散

# Leader 見解

## ◦ Pre 冬山 18

1年生が冬山に入るための(前α)段階の為に  
設けられた113が、その点については、状態が  
雪不足だったために不完全であったと言える。  
(及しワカをはいて歩くことや吹雪の中をアヒン  
をフタることや、実際及い及んだ手で設営することは  
無駄では無いと思う。

◦ 今回の重負が置かれた2年生の Leader ship について  
前α山行に比べて及に意識された113ことは認め  
られる。Leader ship をとるという事は、及に個人  
差があるが、及の及の考え方の形を、確実に及  
なければならぬ。及を判断判断するのは  
要所要所を新人を見つめて113なければならぬ  
である。そこで新人指導方法を及で及の及、問  
題、113を及の及、改めるべきものである。

★SIMAC Pro 冬山 報告書★

1975 12月15日 発行

編集・製作 SIMAC 記録係

発行 信天山岳会 伊那松本山岳部

